

平成27年度 自己評価書

学校名	和歌山市立 貴志南小学校
校長氏名	犬塚 博志
作成日	平成28年3月3日

1 教育目標

21世紀に生きる望ましい人間像をめざし、一人ひとりの子どもの主体性・創造性を養い、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性のある子どもの育成を目指す。
 —たくましい子、やさしい子、考える子—

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携を深め、子どもたちをみんなで見守り、育てる学校 地域の人材や産業の活用 学校行事等を家庭や地域に積極的に広報 	<ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちを理解し、思いやりのある子どもの育成 自尊感情の育成 規範意識のある子 互いに協力する子の育成 生命を大切にする子の育成 進んであいさつのできる子の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 「豊かな学力の充実をめざして」～自己表現力を豊かにし、仲間と関わり合いながら伸びていく子どもの姿を求めて～ 学習の基礎・基本の習得 児童の側に立った教育活動の工夫 児童の表現活動の育成

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観への参加啓発 懇談会の工夫 児童集会への参加啓発 育友会行事、子どもセンター事業への参加啓発 地域の人材の活用 体験活動の重視 行事等の広報活動 学校開放月間の広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「うちどく」の推進 道徳教育・人権教育を中心に学校教育全般で規範意識や自尊感情の育成 ペア学年活動 生活習慣の確立 あいさつの励行 体験活動の重視 仲間づくりの活動の工夫 QU等アンケート調査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の充実 漢字博士検定の実施 補習学習 「書く・聞く・話す」に重点を置いた各教科の指導 取り出し指導など個に応じた学習の導入 小グループ学習の導入 体験を通した学習の重視 学習習慣、学習環境の確立
----------	---	--	--

取組の結果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の公開、啓発については、HPは可能な限り更新できた。 「夏休み作品展覧会」は地域の方も大勢観賞いただけた。 地元の農家の方に指導していただいた野菜作り、米作りは体験を通した学びを得られた。 集会等では多くの保護者の方に参観いただけた。 「貴志地域共育コミュニティ」の事業をはじめたおかげで、地域の教材・人材をより活用できた。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつは児童会や先生によるあいさつ運動により活発になった。見守り隊の方々も積極的に挨拶を促して下さっている。 「いじめアンケート」に加え、必要に応じてのQU調査により、児童の関係性の把握に努めることができ、アンケート結果からも学校全体の意識も高い結果が得られた。 今年行った「ありがとうコンサート」で世話になっている方々への謝意を表す大切さを学ばせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「虹色ルーム」を設けての個別の指導は、成果があったため、「りり色ルーム」も新たに開設。 「九九階段」やデジタルサイネージでの学習クイズ等の学習環境づくりは一定の効果が認められた。 学生ボランティアによる授業補助、外部の講師を招いての「出前授業」は普段の授業を活性化できた。 放課後フォローアップ事業で2人の講師先生や担任による補充学習。 学力調査等で無解答率が水準以上に低く、学習意欲の向上が見られる。
-------------	--	---	---

次年度に向けての改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> 参観授業の参加は多い一方、懇談会の参加が少ないので、育友会とも連携しながら手立てを講じたい。 育友会と子どもセンターで見守り隊の方に謝意を示す「餅つき大会」などを広めていきたい。 よりいっそう「貴志地域共育コミュニティ」の取組を活性化し、地域との連携を図りたい。 本年度の4年生の社会科教材として試みた「シガ木工さん」「NKアグリさん」のように地域素材を教材化し開発するよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の6年生の「老人ホーム慰問」「障がい者問題学習」などのように、体験を通した人権学習をより組み入れていく。 今後の教科化を見据え、道徳授業の充実を図ると共に、特別活動・総合的な学習の時間・生活科など体験を通じて、実践力を養う。 来年度は「貴志中ブロック」が「和歌山市ブロック人権教育研究会」の研究指定であるので、それを機会により人権教育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定は、今は子どもたちの意欲を引き出せているが、今後頭打ちが予想されるため、本校独自の取組を研究していく必要がある。 「わかる授業」は児童も家庭からも評価は今回も上がってはいるが、100%目指し研修等を通じ授業力を高めたい。 今後も、あらゆる子どものために環境や授業のユニバーサルデザイン化を図ることを基本としたい。 英語が教科化されることに備え、指導力育成の準備を進める。
-----------------	--	---	--

3 その他の課題

・年々、個別の支援を必要とする児童が多くなっている。来年度はどれだけの教員を充てられるかは未定だが、大勢の中より個別の指導が望ましい児童のために努力したい。また、関係機関と連携をとりながら、その子にとって最善の環境を提供していきたい。

・開校32年が過ぎ、校舎の老朽化が目立つ。暗かった教室の電灯のLED化、廊下の電灯カバーの塗り替え、扇風機の設置等、軽微なものから改善しているが、アンケート結果でも一番低位の施設面の充実は、今後も担当行政に働きかけ続けたい。